

- 2018年・記録会は 7月15日(日)HLG、PLGともグリーンパークです。
- 2018年・記録会は 8月19日(日)HLG、PLG・「ちびた号」、ともグリーンパークです。

記録史上最短の梅雨開けで、今年も酷暑のようですね。年を取ると身体が鈍感になって熱中症になるとかで、気をつけなければいけません。人間、病気には勝てないもので、今春の手術にはまいりました。まだまだやれるつもりだったのですが、高齢のせいと病気で体力気力もガタガタになるとは考えませんでした。人間終わりが近づくといろいろと変化が顕著になり、店じまいをそれとなく指示してくるのですね。現在FFのクラブで会報で頑張っているのは代々木スカイフレンズとランチャーのみになってしまいました。会報作りは難しいものではないので若い人々やっがって来てイイのですがね。各クラブともそれぞれ奮起して頑張してほしいと思っています。雑談は毎回、面白いかどうか気になるところですが、今回は戦車にしました。よろしく。

記録報告	①② 2018/5月HLG/PLG記録報告	③④ 2018/6月HLG/PLG記録報告、
お知らせ	⑥ 松茸大会案内、	
雑談天国	⑪ 世界の戦車・平尾	
ざっがき	⑫	
	HLG-B図面	

◆2018年5月記録会報告(HLG/PLG)

5月HLG記録会報告

①……赤星、

ランチャーズ記録会 5月に参加してきました。先週、深い草と風で延期になったので、グリーンパークでHLG-Bでの開催です。記録会はいつもの40秒MAXではなく、5秒伸ばして 45 秒MAXとなりました。

風は1~2m/s、向きがコロコロ変わって投げづらい。グリーンパーク特有の気流でサーマル読みが難しい。出だし好調だったのは、中0さんとONYACANさん。中0さんは抜群の気流読みと、投げの安定感でMAXを重ねます。ONYACANさんは異次元の高さで、一人違う競技のよう。二人は早々に 5MAXを決めて、フライオフ進出決定です。I村大師匠は、MAX確実なものにも関わらず、デサ・ショートを 2 回もして惜2くもフライオフ進出を逃します。HLG-Bで優勝経験のあるMGさんも不調。以前、投げ込んでいた通称サバ機が、逃げ出してしまったからでしょうか？私とは言うとも 27 秒とスタートからつまずきます。とうとう 9 投目までに 4MAXと、1-1 まで追い込まれます。いつもより時間をかけてサーマル読み。ここぞとばかりに投げ上げた機体は、なんとかサーマルに入ります。HLG-Bでは初めてフライオフに残りました。

フライオフは 10 分間、60 秒MAX、2-1 と決まりました。残ったのは中0さん、ONYACANさん、それと私。フライオフが始まって早々、ストリーマーが泳いだのを見て、私が発航。しかし、風下のストリーマーを見たのでは、タイミングが遅く、しかも方向違いで撃沈。むしろ下降気流で 23 秒。その後、中0さんが 1 投目を投げますが、やはりデサーマルで 18 秒。ONYACANさんに口撃をしかけますが、慎重になっているのか、なかなか投げません。残り 5 分を切って、もう少し経ってからONYACANさんが発航。高く上がるも気流が悪く、30 秒。実質 1 投勝負となって、ジリジリとした時間が流れます。残り時間が少なくなってきた、始めに動いたのは中0さん。しかし、これも気流に恵まれず 25 秒。フライオフの残り 30 秒あたりからストリーマーが動き始めます。最後の最後まで粘ったONYACANさんと私は、残り 10 秒の声を聞いた後に発航。同じサーマルに入った 2 機の飛行機は、上下を入れ替わりながら飛びます。北側の

グラウンド近くに差し掛かった時、急に姿勢を崩してヒヤッとしますが、ONYACANさんの機体も同じく姿勢を崩します。先にONYACANさんの機体が着地。2秒ほど遅れて私の機体が着地。タイムが60秒を超えていれば、フライオフ2回目ですが、ONYACANさん56秒、私58秒！！久しぶりにランチャーズカップを手にすることができました。なかなかシビレル展開で、楽しい記録会でした。

追記：小生、飛ばせると思って投げてみましたが、全くダメ。足がダメだと姿勢が保てずソッポ飛ぶのですね。ま・80才参加の記録保持と言う事でご勘弁ください。平尾

5月HLG記録会報告

NO	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	合計
1	赤星 和芳	27	45	32	45	45	45	09	07	33	45	225	58	283
2	斉藤 浩	45	45	38	45	45	45					225	56	281
3	中禮 一彦	22	45	45	45	27	45	45				225	25	250
4	井村 真三	41	25	24	45	45	45	45	31	36	38	216		
5	池田 昇	42	26	21	38	31	29	33	22	45	44	202		
6	森口健太郎	45	38	36	05	28	41	25	25	25	41	201		
7	宍戸 輝夫	28	37	25	45	30	34	23	19	30	45	191		
8	吉岡潤一郎	21	43	28	21	22	20	45	45	24	25	186		
9	岡村 貞二	25	28	24	38	38	23	17	32	22	31	161		
10	相沢 泰男	05	06	18	37	31	31	38	23	14	17	161		
11	大八木重信	45	27	28	21	17	28	21	04	16	21	149		
12	大島 廣	20	28	26	45	45	19	12				138		
13	星野 聡	36	22	12	11	14	19	12	37	16	10	130		
14	今関 健一	31	18	18	15	16	19	21	33	23	23	108		
15	久保晃英	16	18	08	23	21	20	17	09			97		
16	平尾 寿康	06	14	15								35		

5月PLG記録会報告

④………… 工藤

ランチャーズ5月記録会は、強風の影響で1週遅れの27日にハンドランチと求道の開催となりました。風はそれほどなく、時折発生するサーマルを狙ってスーパーMAXを狙う展開となります。参加選手は13名と多くの参加者に恵まれ、活気のある記録会となりました。前半5投目まででは各選手横並びの展開ですが、三辺選手がスーパーMAXを記録し一歩リード。続いて八木(喜)選手と工藤がスーパーMAXを記録し、残り1MAXも記録してでフルMAXを記録。また、吉本選手は4MAX後の7投目にスーパーMAXを記録し、3人がフライオフ進出となりました。三辺選手はスーパーMAX後に4MAXが記録できずスライオフ進出ならず。その他の5選手は気流に恵まれず、4MAXを記録するもスーパーMAXを記録できないというハイレベルの記録会でした。フライオフは90秒MAX・2投として行い、見事に1投目で90秒をクリアした吉本選手が3か月ぶりの優勝となりました。45秒MAX+スーパーMAX70秒で3名のフライオフ進出が出るというランチャーズ記録会のレベルの高さが現れた記録会でした。工藤

PLG記録 5月27日(日) 武蔵野中央公園 晴れ 風1m 45秒MAX4投+スーパーMAX70秒

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	FO	合計
1	吉本 凌一	24	45	45	45	31	45	s 70	—	—	—	90	340
2	工藤 陽久	35	45	40	42	45	45	s 70	30	45	—	39/42	292
3	八木 喜久江	25	45	28	45	45	s 70	45	—	—	—	34/31	284

4	三辺 雄司	27	38	s 70	20	43	45	45	35	32	45		248
5	原 一博	45	33	45	45	38	39	45	s 39	—	—		219
6	水車 進	39	45	s 37	43	45	45	45	—	—	—		217
7	八木 博典	14	39	45	45	s 36	43	45	45	—	—		216
7	河田 健	43	45	45	30	45	s 36	37	45	—	—		216
9	尾羽林 邦夫	34	41	15	43	6	45	45	25	30	s 40		214
10	木下 龍三	26	45	45	s 31	45	31	35	45	—	—		211
11	アントニオ大堰	32	11	33	45	s 33	16	40	45	21	23		196
12	倉田 泰蔵	31	17	23	36	29	25	27	45	29	s 50		191
13	大江 賢	18	45	45	32	35	45	30	28	42	s 6		183

スーパーMAX 制あり:宣言して70秒まで記録できる。s付き数字は必須加算。

FO 90秒MAX 2投

◆2018年6月記録会報告(HLG/PLG)

6月HLG記録会報告

③…………赤星

1. ランチャーズ記録会6月に参加してきました。駐車場が開く7時に公園到着。すぐに続いて中0さんとやまめさんが到着。公園には既にONYACANさん、Chopperさん、SS戸さんが既にいらっしやいます。

記録会は今回も45秒MAX、5/10。記録会が始まっても微風曇天。全くないわけではないのですがサーマル読みがかなり難しいコンディションでした。あのONYACANさんでさえ、3つ続けてMAXを取りこぼしていました。そんな中、やまめさんは怒涛の連続発航。用事があったのか、あっという間に10投を投げ終えて帰路につかれました。私はというとスタートから30秒台を連発。4投目でようやくMAXを取りますが、後が続きません。失投もあり、どうにか200秒台に乗りましたが、2MAX止まりと不満の残る成績でした。優勝はやっぱりONYACANさん。一人5MAXで異次元をいきます。おめでとうございます。(赤星)

2. 小生、久しぶりの参加を目指して頑張りましたが、足がダメだと投げる姿勢が崩れてだめなのですね。振り投げでは、それ程力を入れなくてもイイと思ってましたが、そうはいかないのです。ま・ガンバって6回投げて終わりにしました。高度で凄いのは浩と赤星の両君ですね。あれだけ上げられれば、45秒は行くでしょう、素晴らしい。この日はサーマルがハッキリせず難しい日で、相沢会長はもっばらちびた号を投げてました。模型ヒコーキの原則である寸法効果で相当損をしてましたが、かまわず投げるところが会長らしいです。その他では、紙飛行機の大八木選手が頑張ってましたが、途中で上空視界没で3位でした。そのほか、森口、赤星二世が可愛く頑張っていました。親の遊びに付き合わされるのは幸せなのか不幸なのか、後半は木陰に戻って本を読んでいました。ご苦労様。(平尾)

HLG記録 6月17日(日) れグリーンパーク、曇天、風 1m 45秒MAX 5/10 投

NO	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	F1	合計
1、	斉藤 浩	43	28	40	45	45	45	45	43	45	—		225
2、	赤星 和芳	37	35	33	45	39	17	45	28	25	37		203
3、	大八木秀信	17	37	0	37	5	25	42	33	36	45		197
4、	石井 満	01	28	33	26	30	20	32	41	36	45		187
5、	池田 昇	23	37	30	42	23	37	22	21	32	20		178
6、	中禮 一彦	27	38	25	32	28	29	34	35	28	37		176
7、	久保 晃英	28	08	19	40	34	24	17	45	26	25		173
8、	森口健太郎	26	30	22	17	27	22	32	36	41	26		166

9、吉岡潤一郎	33	17	21	27	37	29	23	35	28	28		162
10 宍戸 輝夫	31	32	22	23	26	45	25	25	25	20		159
11 星野 聡	31	30	21	22	18	20	21	20	14	38		142
12 今関 健一	17	20	31	25	29	17	01	35	09	16		140
13 赤星 煌	15	13	18	18	20	32	19	24	05	33		128
14 相沢 泰男	27	23	23	18	13	22	19	19	32	15		127
15 森口 はな	11	20	15	21	20	05	03	20	18	25		106
16 平尾 寿康	20	23	18	08	19	11						91

6月PLG記録会報告

工藤

ランチャーズ6月記録会は、梅雨の晴れ間で好条件の中行なわれました。練習中から頻繁にサーマルが現れ、今回も好記録が期待できるのではないかと考えられていましたが、45秒MAX4投+スーパーMAX70秒1投で行うこととしました。武蔵野中央公園では、紙飛行機大会が行われており、ランチャーズ記録会は8名の参加者と少し物足りない参加者数となりましたが、開始後は非常に熱い記録会となりました。3投目までの記録は、21投中、スーパーMAX1投、MAX17投で、45秒に達しなかったのはわずかに3投のみという状況でした。木下選手は絶好投で、2投目にスーパーMAXを記録し、その後もMAXを記録し、5投目でフライオフ進出決定。続いて、三辺選手と原選手も5投目にスーパーMAXを記録。さらに、大江選手と工藤もスーパーMAXを記録し、5選手がフライオフ進出というこれまでにない記録会となりました。惜しくも気流の恵まれずスーパーMAXを記録できなかった吉本選手、尾羽林選手も4MAXを記録するなど、出場7選手がフライオフ進出かとも思われる記録会となりました。

フライオフは、計時者がいないためハンドランチの選手の応援をいただいたことから、記録無制限1投、ほぼ同時発航の勝負としました。フライオフは、それまでの記録とは裏腹に、各選手の平凡な記録の中、絶好調の木下選手が63秒を記録し、2016年6月の記録会以来2年ぶりの見事な優勝となりました。ランチャーズPLG記録会は、各選手の技術の向上と気流読みのうまさのため、記録が飛躍的の伸びてきており、45秒MAXでは勝負がつかなくなってきたようです。7月はさらに縛りをきつくしなければならぬかと思いました。

PLG記録 6月17日(日) 武蔵野中央公園 晴れ 風1m 45秒MAX4投+スーパーMAX70秒

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	FO	合計
1	木下 龍三	45	s 70	45	45	45	—	—	—	—	—	63	313
2	大江 賢	45	45	45	30	37	45	s 70	—	—	—	53	303
3	原 一博	45	45	45	45	s 70	—	—	—	—	—	50	300
4	工藤 陽久	45	45	35	30	42	39	45	45	s 70	—	48	298
5	三辺 雄司	45	45	45	45	s 70	—	—	—	—	—	44	294
7	吉本 凌一	45	45	45	s 68	37	42	45	—	—	—		248
8	尾羽林 邦夫	45	34	29	45	35	18	45	45	s 15	—		195

スーパーMAX 制あり:宣言して70秒まで記録できる。s付き数字は必須加算。

FO 無制限1投 同時発航

お知らせ

■ 平成29年秋季大会(松茸大会)開催のご案内 (参考) ⑥

開催日時	平成30年9月30日(日)受付7時30分～、ミーティング8時15分～、競技8時45分～11時45分、フライオフ12時、(但し競技進行状況によって変更する場合があります)
場所	三重県鈴鹿市池田町タンボ
種目	①中型混合級(国内級、ミニ国際級のグライダー・ゴム動力機・エンジン機+電動機) ※電動機:F1Sモーターラン10秒、F1Qモーターラン7秒 ②小型混合級(スパン30インチ以下、ゴム10g以下ならどんなゴム動力機でもOK) ③HLG級(A・B)
競技方法	・中型混合級は2分マックス、5R制 ・小型混合級は、1分MAX、1R最大3回まで飛行可能。1分をクリアーした選手は2分MAXの2Rに進む。2Rは2回まで飛行が可能。2分をクリアーした人はFOへ ・HLG級は1分MAX10ラウンドの上位タイム5R制
参加費	・3000円、中学生以下は無料、・2種目エントリーしても参加費は不変、但し、ダブル入賞のとき副賞は上位成績の種目のみ。
その他	・第三者に被害を与えた場合、競技者本人の責任で対処。・気象条件等により、R数、MAXタイムを変更の可能性がある。・火縄を使う場合、落下防止装置は必須、不備の場合は失格とする。・その他、不明な点ば、実行委員にお尋ねください。
実行委員	・中型混合級 吉川強、佐藤宏彦、吉田潤、・小型混合級 小黒雅元、鈴木勝 ・HLG級 掛山吉行

FF文化サロン

★ 雑談天国

世界の戦車

記事・holy777さん、アレンジ・平尾

航空機と違って戦車の進歩は評判にはならないが、現在各国で使用されている主力戦車の一覧を調べて見た。とは言え、第2次大戦で爆発的な進化を遂げた戦車は冷戦をへた現代でも陸上最強の兵器である。しかし求められる性能は徐々に変化している。今回の資料では第一線に配備されている第2世代戦車から最新の第3.5世代戦車までである。冷戦終結に伴う軍事的緊張の緩和と軍事費削減、重量の限界などで「第4世代主力戦車」の登場前に、第3世代主力戦車のアップグレードが図られたものが



パットン

第3.5世代戦車とされています。モジュール装甲(後付装甲の事)の導入のほか、戦車の上部を狙ってくる対戦車ミサイル攻撃への考慮。火砲の長砲身化等による威力の向上。C41複数統合情報システムの搭載による集団戦闘化が図られています。

M60 パットン

開発国:アメリカ、運用国:エジプト、イスラエル、トルコ、コ、台湾など20カ国以上。運用開始:1961年、M46パッ



エイブラム

トンシリーズの最終改良型。元のM46 が 1949 年に採用されてから 60 年以上に渡って改良を重ねながら使用されている。アメリカでは湾岸戦争を最後に退役したが、西側中小諸国を中心に多くの国で第一線に配備されている。

イブラムス

開発国:アメリカ、運用国:アメリカ、オーストラリア、エジプト、クウェート、サウジアラビア、モロッコ、イラク、台湾。運用開始: 1981 年、第 3 世代戦車改良型のM1A2 が主力となり、戦後第 3.5 世代戦車として最強戦車の1つと目される。当初から拡張性が強く意識され、主砲は改良型 120 mm砲に強化。装甲も改良ごとに強化された。エンジンにはガスタービンで高出力を誇るが燃費の悪さが欠点。



レオパルト1

レオパルト1

開発国:ドイツ、運用国:ブラジル、トルコ、チリ、ギリシャ、エクアドル、レバノン運用開始: 1965 年

欧州の標準戦車として多数の国で使われた。第二次大戦後初の西ドイツ製第二世代戦車である。主砲には当時の西側の主流だった 105mm砲を搭載。装甲よりも機動力を重視する当時の風潮もあり、装甲厚はやや薄いが高機動力を持つ。海外向け改修にも柔軟に応じたことで多くの国で採用された。



チャレンジャー1

チャレンジャー1

開発国:イギリス、運用国:ヨルダン、運用開始: 1983 年、前作のチーフテンで採用された新技術を継承し発展させた第 3 世代戦車。車体や 120mm砲などチーフテンのものを引き継ぎつつ、装甲は複合装甲を採用し防御力を高めた。評判の悪かった複雑な足回りも改良された。



T90

T-90

開発国:運用国:ロシア、運用開始: 1993 年

T-72 を改良した第三世代戦車。T-80Uに比べて性能は劣るものの、信頼性の高さと生産性の良さが重視されている。



T14

T-14 開発国:ロシア、運用国:ロシア、運用開始: 2016
T-62 からT-90 まで続いた戦車改良が限界に達したことを受け、完全新規設計の戦車として開発されたロシア最新鋭車両。



99式

99式戦車 開発国:中国、運用国:中国。運用開始: 2001年、試作段階であった98式戦車の不具合を改修した中国主力戦車。高性能ながら高価なため、第2世代である安価な96式戦車とハイローミックスで配備・運用されている。



K2

K2

開発国:韓国、運用国:韓国、運用開始: 2014年

強力な120mm砲を搭載するために新規設計された韓国国産戦車。パワーパックも国産のものを使用する予定だったが、不具合が頻発し、初期生産分はドイツのユーロパワーパックを搭載した。



メルカバ

メルカバ

開発国:イスラエル、運用国:イスラエル、運用開始: 1978年、乗員の防御を最重要視し、エンジンを車体前部に搭載したイスラエル主力戦車。



アージュン

アージュン

開発国:インド、運用国:インド、運用開始: 2004年

58.5tもの巨体ながら70km/h以上の速度で走行可能なインド国産戦車。



TR-85

TR-85

開発国:ルーマニア、運用国:ルーマニア、運用開始: 1986年、1970年台にルーマニアはソ連製T-55を元に国産のTR-580戦車を開発した。この戦車の後継機として、TR-850に西ドイツ製のパワーパックを搭載したのがTR-85である。



CM11

CM11、

開発国:台湾、運用国:台湾、運用開始: 1990 年、
勇虎(ヨンフー)式戦車の愛称を持つM60A3 の台湾独自改良型。



90式戦車

90 式戦車

開発国:日本、運用開始: 1991 年

対ソ連を目的とした北海道限定配備の第三世代戦車。120mm滑空弾に他国に先駆けて自動装填装置を装備し、乗員を従来の4名から3名に減らした。装甲は世界トップクラスの防御力を誇る。日本戦車で最重量だが、同世代他国戦車は60t級が主流で世界では小型軽量の部類に入る。



10式戦車

10 式戦車

開発国:日本、運用国:日本、運用開始: 2012 年、小型軽量ながら大火力と複合装甲による高い防御力を備えた3.5世代戦車。複合素材の使用で防御力は90式以上とされる。高い情報処理による戦略・戦術的指揮機能を実現したC41機能を日本戦車として初めて採用。コストダウンも重視され、1台9.5億円程度とされる。砲の自動装填装置を採用し、乗員は車長・砲手・操縦士の3名である。8気筒ディーゼルエンジンと油圧機械式無段階自動変速操向機を組み合わせた動力装置を搭載する。また、重量は約44トンに抑えられていて、走行で時速70Kmを出す。砲塔が常に水平にたもたれているので、演習で披露された静止目標に対するスラローム射撃でも百発百中の命中精度を有している。又、峰にはなどによる曲がりセンサーを搭載して、コンピューターでそれを修正して発砲するので命中精度はスゴイ。アメリカで公開訓練したときにはスゴイ命中精度に驚いた将校のアンコールで、翌日は倍の将校が見に来たらしい。自衛隊ではこの車両を走るコンピューターと呼んでいる。

今後増加予定の装甲車群



ストライカー

ストライカー装甲車

ストライカーは、アメリカ陸軍の装輪装甲車である。1999年に地域紛争やテロに対して迅速に戦力を展開する必要から開発され、軽歩兵に装甲、火力、戦術機動力を与える存在である。また、軍のネットワーク化の部隊実験にも好適であり、各種通信装置、ネットワーク情報システムなどが装備されている。砂漠や草原での戦闘が減ってきて、テロや市街戦が多くなった結果、高速移動が必要になってきたからであろう。

陸自「16式機動戦闘車」

市街戦が増える等で高速移動戦闘車が必要になったの



16式機動戦闘車

で誕生した、島嶼防衛や陸上自衛隊の新戦術を行使する上で必要不可欠な存在である。装輪戦車は足回りをタイヤとした戦車のようなシルエットの装備で、戦車に準ずる攻撃力、そしてこれまで配備してきた軽戦車等を補う存在として、他国ではレバノン紛争、チャド紛争、湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争と、いくつもの戦場にも投入されてきました。以上資料：菊池雅之(軍事ジャーナリスト)

第4世代戦車

第4世代戦車の定義は①走行装置が無限軌道であること、②戦線を突破できる防御力を持つ。③戦車、敵装甲戦闘車両を積極的に砲撃撃破できること、④全周旋回可能かつ砲塔を有すること、⑤固有武装を用いて、あらゆる敵陸上部隊と直接的かつ持続的な戦闘を行えること等々あるようですが、それよりも1秒でも早い情報収集能力と光学、レーダー、赤外線等による火器管制装置と通信情報共有システムの複合的自動照準化が全てのようなようです。

戦車でも航空機搭載のアビオニクスにならってベトロニクスと呼ばれる高度な電子機器が装備されるようになっている。ベトロニクスには、火器管制装置や通信情報共有システム、GPS、敵味方識別装置、車外監視システム、攻撃警戒システム、動力系制御装置などが連動していて、必要に応じて切替可能な表示装置によって乗員の意思決定を助け、迅速な操作を可能としている。日本の10式戦車では、可視系の視察照準にハイビジョンカメラを用いたモニター照準方式を世界で初めて戦車に採用、複数の目標を同時に捕捉識別する高度な指揮・射撃統制装置に加え、リアルタイムで情報を共有できる高度なC4Iシステムなどを装備しており、例えば小隊が複数の目標を同時に射撃するときシステムが最適な目標の割り振りを自動的に行って、同時に発砲したり小隊長が小隊内の他の戦車の射撃統制装置をオーバーライドして照準させることも可能である。将来的にはOH-1 観測ヘリコプターやAH-64D戦闘ヘリコプターからの情報も入手できるようになると言われている。

★ ざつがき

1. 世界の軍用機 2016 ミタリー、関 賢太郎(航空軍事評論家) まとめ:平尾

1年に1回、世界の軍隊における航空戦力の統計をまとめた航空専門誌『フライトグローバル』が去る12月、最新版となる2016年度版を公表した。「世界の空軍2016」によると、全世界で軍用機の総数は5万2107機に達し、うち26%の1万3717機をアメリカ軍が保有しダントツの1位です。2位はロシア軍3547機、3位は中国軍2942機、4位はインド軍2086機、そして5位に自衛隊の1590機(3%)が入ります。また6位には韓国軍1429機、10位には北朝鮮軍944機がランクインしました。ランキング上位国はアジアに集中しており、その伸び率も前年比2%増。極東は世界でも屈指となる高密度の軍用機配備地域となっています。これで見るとアメリカが世界の1/4の航空機を保有しているわけで、如何にスゴイ国か解ろうというもの。中国がどんなに頑張っても追い付くのはムリだろう。



P3C

① 特徴的である日本の航空戦力

日本は「作戦機(戦闘機・爆撃機)」が287機で10位、「特殊任務(偵察機・哨戒機)」が159機で2位、「輸送機」が70機で9位、「ヘリコプター」が625機で6位、「練習機」が444機で2位と「特殊任務」と「練習機」が特に抜きん出ており、「特殊任務」はP-3C哨戒機78機、「練習機」はT-4ジェット練習機201機がそれぞれ半数を占めています。なお、いずれも

世界 1 位はアメリカ軍です。日本は自衛隊員数が 25 万と、軍用機配備数トップ 10 を占める国のなかでも“群を抜いて兵力の小さい”組織であり、島国という地勢上から航空機を重要視し、整備している点が大きな特徴といえるでしょう。また人員に対するヘリコプターや輸送機の多さからも、極めて航空機動力に富んだ防衛組織であるといえます。アメリカと海国日本で世界の哨戒機の半分以上を占めてしまうので、日本が情報収集に力を入れているのは、正しい方向であると言える。

② 配備数世界一はF-16、しかし“時間の問題”か

「世界の空軍 2016」では機種別の配備数もまとめられており、戦闘機は全世界で 1 万 4552 機が現役。そのなかで最も数が多い機種はロッキード・マーティンF-16 の 2264 機とされ、うち 971 機をアメリカ軍が保有します。F-16 は 1974 年に初飛行し、総出荷数は 4500 機を突破。未だに生産が続いていますが退役ペースのほうはやや上回っており機数を減らしています。そして 2 位はボーイングF/A-18 の 1047 機、3 位はスホイSu-27/30 の 943 機、4 位はボーイングF-15 の 858 機(うち自衛隊機 201 機)、5 位はミグMiG-29 の 819 機、6 位はミグMiG-21 の 551 機、7 位はスホイSu-25 の 503 機、8 位はノースロップ・グラマンF-5 の 482 機、9 位は成都F-7 の 459 機、10 位は成都J-7 の 418 機となっています。J-7、F-7 はMiG-21 の中国生産型です。よってこれらを同一機種とみなせば、MiG-21 シリーズは 2 位の 1428 機であり、初飛行の 1955 年から 60 周年を迎えた旧式機でありながら大いに健闘しているので、「航空史に残る超ロングセラー機」といえるでしょう。ただ、J-7 は中国軍の作戦機数 1528 機のうちの大多数を占める主力機ですが、その数を急速に減らしており、高性能で新しい成都J-10Bへの機種更新が進んでいます。

なお、2015 年によりやく実用化が開始されたロッキードF-35「ライトニングII」はまもなく全規模量産を開始、ピーク時におけるその生産機数は輸出分含めて年 240 機に達する見込みであるため、F-16 に替ってトップになるのはもはや時間の問題です。この分野でもアメリカ空軍がパワーを独占している。



Mig-21



F-16



Su-27

中国のステルスと言われる戦闘機はインド空軍のスホーイのレーダーで簡単に発見されているので、中国製ステルス機は相当怪しい。しかしF-35ライトニングIIが世界で使用され始めると、統合戦闘能力(自動照準装置)と合わせて、中国機の威力は無きに等しいだろう。

2. 10年以上前の競技会日程、を思い出してみると、(少し怪しいが)・・・。

平尾

過去の年間競技会日程は、現在から見ると凄く盛んで混んでました。まず、年初2日目の選手会主催大宮顔合わせ会、この日は競技はなく必ず榎引氏の鍋があり楽しみでした。次に、年初第1日曜日、湘南クラブ主催の神奈川平塚田んぼで中型、HLGの湘南大会、ここでも鍋あり。2月末のYSFの中型、HLGの大宮田んぼでの寒中杯、4月びわ湖大中国国際級大会、これがなくなって板倉国際級大会、8月御殿場国際級日本選手権大会、これがなくなって8月KFCの富士川滑空場での中型HLG大会、これもなくなって淋しいので8月千葉でのランチャーズ合宿(30年以上継続)、更に続いて新潟合宿。9月名古屋中型機HLG大会、11月日本選手権大会等々あり、全部行くとお金がかかるのと体力的に大変でしたが、前日の飲み会が楽しみでした。しかし時代と共に田んぼが狭くなって使えなくなり、場所を捜し

て千葉に移動したり、時期も変更になってます。当時は参加者選手が沢山いたので、大中、名古屋には車を連ねて行きましたが、昔は今より寒く春や11月の大会では現地が雪でした。当時の機体はオールバルサ機なので、エンジン機などは上昇中バラバラになって墜落するのもあって恐怖でした。会報もKFC、CFFC、YFC、ランチャーズ等沢山発行されていました。月例会もアチコチでありましたが、現在はランチャーズのみで40年続けています。選手の高齢化で減少して寂しくなりましたが、残された我々ランチャーズは希望の星ですので、これからも益々頑張りましょう。

3. 石井英夫氏引退か

先日石井英夫さんから電話がありました。脳梗塞を起こして今年の春以来リハビリしていた病院を6月末に退院して、後は自宅で療養するとのことでした。90歳になって動きが不自由になった為、車も処分しグリーンパークにも来られないようです。私は千葉ですから町田までは簡単には行けませんが、近くの人が寄ってグリーンパークに連れてきてくれるとるとイイのですが。90歳以上のFF屋はあと超人・織間さんのみになりますが、FF界もダンダンと淋しくなりますね。その次は80才代ですが、これも減少中ですがあんまり少なくなつてはまずいでしょう。頑張らないとイケません。私も80才直前に大病を患って苦しみました。ランチャーズ会報等でまだまだ頑張る気でいますが、どうなることやら解りません。飛ばす方は大型機は引退ですが、まだまだ中型、小型機で頑張る気でいますのでよろしく。特に腕力で投げるHLGで当分頑張るつもりです。

4. 80才は地雷原か

私の友人が「80才は地雷原に入ったようなものだ」と言っていますが、最近この表現は「当たりだ」と思っています。一般的に男の平均寿命は80才ですからこの年齢の人は多いはずですが、私の場合、親しい仲間10人の内、生き残っているのは2人のみになっています。アレアレと思っていたのですが、私も80才直前になって大病を患い2ヶ月間も入院していたので、80才になって感慨無量の感があります。年初に手術をして胃を全摘しました。そしたら物が喉を通らなくなって、喉と舌の筋肉強化の訓練に20日。

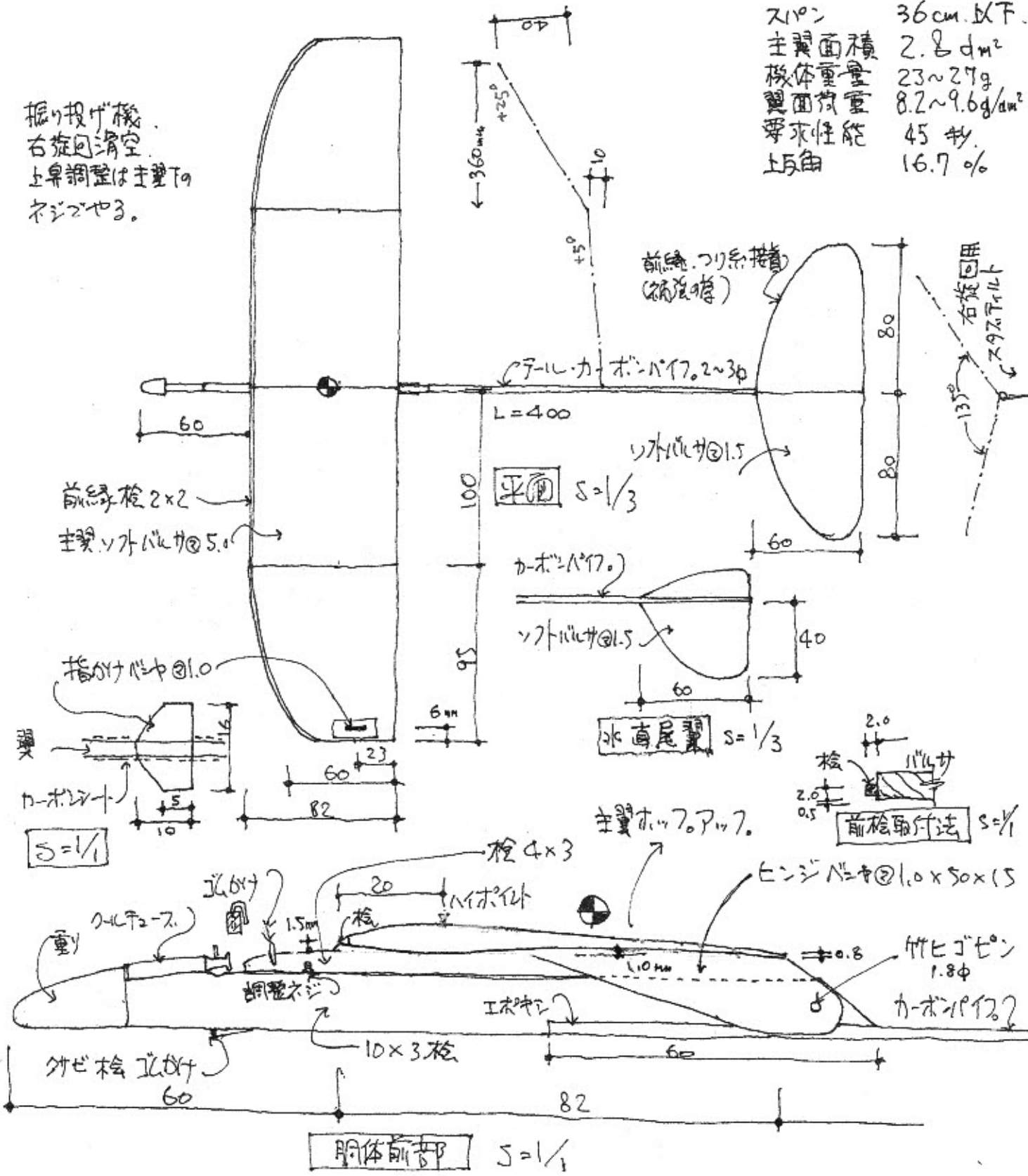
喉に力がなくなるとものを食べたときにパカと弁が開かなくなって、誤嚥して物が肺入るのです。そうすると肺炎を起こして下手すると死ぬのです。その後は胃がないための食事の訓練に10日もかかったので入院が長かったのです。それで喉を前後に動かしたり舌を力を入れて出し入れしたりして筋肉を強化する訓練をしました。それを熱心にやった結果、この病院で初め嚥下から回復した最初の患者のになったので、医者、看護師みんなが凄く喜んでくれました。ものが食べられるようになると、次は胃が亡い人の食事の訓練があり、入院が2ヶ月もかかっのです。退院して半年が経ちましたが、60日の入院で歩けなくなってしまい、今だに歩くのが辛いです。懸命に努力中ですが、普通に歩くのは簡単ではないのですね。私の場合、たまたま病気と80才になるのが重なったので、体力の衰えが激しいのかなと思っていますが、歩行がキツイです。このままでは振り投げのHLG-Bを投げられるようなは、秋になりそうです。これは参りましたね。病気に気をつけましょう。

HLG-B改振り投げ競技機 (UHLG)

2008.6. by H. Hirao.
2011.5

振り投げ機
右旋回滑空
上昇調整は主翼の
ネジをやる。

スパン 36cm以下
主翼面積 2.8 dm²
機体重量 23~27g
翼面荷重 8.2~9.6g/dm²
要求性能 45秒
上反角 16.7%



クールの使い方. 始めはゴムロケット発射機に引っぱって、クールの目印は、強引に投げると
動きが目で見える程早く動かす。動きがなめらかになると、力の強さを弱くして使う事。